

平成 25 年 度

事 業 計 画 書

自 平成 25 年 1 月 4 日

至 平成 25 年 12 月 31 日

公益財団法人 馬事文化財団

目 次

| | | |
|-----|-----------------------|---|
| I | 根岸競馬記念公苑における事業 | 1 |
| 1 | 馬の博物館の事業 | 1 |
| (1) | 馬に関する博物資料の収集、保管 | 1 |
| (2) | 馬に関する博物資料の展示 | 1 |
| (3) | 馬に関する博物資料の調査、研究 | 1 |
| (4) | 出版事業 | 2 |
| (5) | 博物館としてのその他の活動 | 2 |
| (6) | 研究交流・館外協力及び研修等 | 2 |
| 2 | 馬展示事業 | 3 |
| (1) | 馬の展示 | 3 |
| (2) | 展示馬を活用した活動 | 3 |
| (3) | イベント（春・秋）の開催と外部協力 | 3 |
| (4) | 厩舎管理等 | 3 |
| 3 | 馬文化の保存 | 3 |
| 4 | 公苑の管理 | 3 |
| II | J R A 競馬博物館における事業 | 3 |
| (1) | 競馬に関する博物資料の調査、収集、保管 | 3 |
| (2) | 競馬に関する博物資料の展示 | 4 |
| (3) | 館内の案内 | 4 |
| (4) | 移動展示及び他団体主催展示への協力 | 4 |
| III | 競馬振興会館（Gate J.）における事業 | 5 |
| (1) | 馬の文化及び競馬に関する各種情報の発信 | 5 |
| (2) | 競馬関連イベントの開催 | 5 |
| (3) | 馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映 | 5 |
| IV | 広 報 | 5 |
| V | J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集 | 5 |

平成 25 年度 事業 計画

平成 25 年度においては、当公益財団法人定款第 4 条の目的を達成するため、根岸競馬記念公苑 馬の博物館をはじめとする各施設において効果的な展示、イベント等を行い、学術及び文化の発展に寄与します。

I 根岸競馬記念公苑における事業

1 馬の博物館の事業

(1) 馬に関する博物資料の収集、保管

馬に関する博物資料や情報の収集及びこれらの保管、保持に努めます。また、収集した博物資料については「博物資料管理システム」に文字と画像情報を逐次入力し、情報の充実化と効率的な管理を図ります。

博物資料の保管にあたっては、文化財保護の基本的観点から、保存環境を整え、将来への継承に備えます。

(2) 馬に関する博物資料の展示

蓄積した馬に関する博物資料を、最良の状態で、さまざまに工夫をして展示し、多くの人々の鑑賞に供します。

春季は特別展『うみの武士 やまの武士（仮称）』を開催します。東西に駆けた坂東武者の雄・畠山と三浦二つの武士団は、それぞれ山と海を足がかりに武名を揚げたと伝えられています。この両家を中心に、鎌倉幕府を作った人々と馬のかかわりを紹介します。

企画展示・テーマ展示については、『馬のアート』『東北の馬と祭り』『横浜の馬伝説』『馬頭観音』（いずれも仮称）など、年間を通して歴史、民俗、美術、自然、競馬各分野のテーマを設けて展示を行います。また、平成 26 年の午年を期して 12 月より『初春吉例 馬の屏風（仮称）』を開催します。

常設展示については、来館者が馬について理解を深めることができるよう、収蔵品を活用した効果的な展示を行います。

なお、馬の文化に関する知識の普及と一層の入館者増を期して、より多くの見学者の多様な関心に応えるため、展示内容の理解の助けとなるような図録・リーフレットを作製します。

また、展示内容を広く周知するため、特別展示等にあわせて、報道機関等を利用して宣伝に努めます。

(3) 馬に関する博物資料の調査、研究

馬の文化について、自然科学（進化・品種等）、人文・社会科学（歴史、考古、民俗、美術工芸、馬術、競馬等）の各分野において、広

く文献収集・聞取・実地調査にとりくみ、調査結果の分析・研究を行います。

(4) 出版事業

馬の文化についての理解を広めるため、印刷物を刊行・配布します。

- ① 特別展示にあわせ、展示内容を中心とした図録を作製します。
- ② 馬に関する博物資料の調査、研究その他の活動の成果は『馬の博物館研究紀要』あるいは「小冊子」等において発表します。
- ③ 刊行物は、全国主要博物館、美術館、図書館、大学、日本中央競馬会事業所・関連団体等に配布します。

(5) 博物館としてのその他の活動

学校教育・生涯教育の分野での期待に応えるため、児童・生徒の遠足・団体見学等のさまざまな機会をとらえて馬についての知識と理解を広めるとともに、馬の文化についての自発的な学習を支援し、その普及の拠点となるように努めます。

- ① 特別展示などに即して各種講座・講演会を企画します。
- ② 児童生徒に対し土曜日を無料入館日として来館を促進するとともに、学習素材の充実を図ります。

また、夏季休暇期間は相談コーナー、工作教室等を設けるなど教育活動の一助とします。

- ③ 学校教育と積極的に連携し、児童・生徒・学生の体験学習・生活学習の受け入れを推進します。特に地域の小中学校に対しては、要請に応じて臨機に対応します。
 - ④ 次世代の博物館を担う人材の育成のため、大学の学芸員課程の実習依頼に応じ、実習生を受け入れ、指導を行います。
 - ⑤ 各地の博物館・美術館をはじめ、生涯学習機関や競馬関連機関・団体等の要請に応じ、馬及び競馬の歴史等について講演等を行います。
 - ⑥ 装蹄教育センターなどの競馬関連機関、獣医学・動物看護関係など馬に関係する学校・団体などの見学に際し、展示案内とともに講義・質疑応答も実施し授業の一助となるよう協力します。
- (6) 研究交流・館外協力及び研修等
- ① 調査研究活動の成果を公表することによって広く学術の発展に貢献するとともに、活動のさらなる進展を期し、学会・研究プロジェクト等に参加し、研究交流を促進します。
 - ② 他の博物館における馬の文化にかかわる展示・出版・映像等の企画に協力し、内容の向上に寄与することを目指します。
 - ③ 博物館事業の充実を図るため、日本博物館協会、神奈川県博物

館協会及び東海地区博物館連絡協議会の行う会議、研究会、専門部会に参加するとともに、各地の博物館、教育機関との交流を通じて資料の相互活用及び情報交換を行います。

2 馬展示事業

(1) 馬の展示

身近に接し見る機会が少なくなっている馬という動物を博物館事業の一環として、繫養展示します。

その際、多品種の馬を繫養し、施設内での放牧や騎乗等の他、日常の飼養管理の様子を紹介します。

(2) 展示馬を活用した活動

① 入館者を対象とする体験乗馬及び馬車の試乗会を行います。

② 小学校高学年を対象に、展示馬を活用して馬に関する基礎知識を学習する機会を設けます。

③ 来苑者がにんじんを自ら与えながら馬に触れ、親しめる機会と癒しの場を提供します。

④ その他、随時希望者に対し馬に親しむ機会を設けます。

(3) イベント（春・秋）の開催と外部協力

① 馬をテーマとしたイベントとして、春季は『馬とあそぼうこどもの日』、秋季には『馬とのつどい 2013』を開催します。

② 要請に応じて日本中央競馬会をはじめ他団体のイベントに協力するため、展示馬を貸し出します。

(4) 厩舎管理等

展示馬の健康管理及び事故防止に万全を期すとともに、厩舎内外の衛生管理並びに美観の保持に努めます。

3 馬文化の保存

馬にちなんだ日本の伝統行事や祭事の保存・振興及び国内在来馬8種の保存を図るための事業を実施します。

4 公苑の管理

種々の草花や樹木の整備など自然環境保持に努め、近隣の児童・生徒等の教育や、自然を楽しむ人々の生涯学習の場として、また、来苑者の憩いの場としても広く利用される施設整備を図ります。

II JRA競馬博物館における事業

(1) 競馬に関する博物資料の調査、収集、保管

競馬に関する国内外の博物資料を調査し、体系的に収集、保管することにより、文化的価値の高い競馬博物館運営を図ります。

(2) 競馬に関する博物資料の展示

ギャラリー展として春季には、80回の節目を迎える日本ダービーを記念し、レースの歴史や、秋に開場80周年となる東京競馬場の歴史とあわせて紹介する『第80回記念東京優駿展（仮称）』を開催します。秋季には、人気や実力が伯仲した有力馬同士が対戦し、ファンの記憶に残るレース等を紹介する『ライバル対決展（仮称）』を開催します。

また、夏季には、競馬漫画の原画や関連資料を紹介する『競馬漫画の原画展（仮称）』を開催し、冬季は、日本中央競馬会制作の「ヒーロー列伝」ポスター等を一堂に集め、『競馬ポスター展（仮称）』を開催します。

テーマ展としては、初春に前年を回顧する『2012年度JRA賞展』を開催します。次に、競馬の国際化に伴い、来日した多くの外国人騎手に着目し、『ワールドジョッキーズ展（仮称）』を、3月～9月上旬、9月上旬～平成26年2月の二期にわけて開催します。（前期は、日本で活躍した外国人騎手を中心に展示し、後期は海外や地方の騎手招待競走についてもあわせて紹介します。）

エントランスホールでは、『2013年度新人騎手紹介展』『創設30回記念フェブラリーS展』『第33回ジャパンカップ展』（いずれも仮称）を開催します。

この他、新顕彰馬・引退騎手・引退馬・三冠馬等があった場合は、随時展示を行います。

また、展示の開催にあわせて入館者に対して展示の理解増進を図るため、適宜、配布用印刷物の作成やビデオ映像等を作製します。

(3) 館内の案内

来館者に競馬の魅力を感じてもらえるように、展示物や競馬に関する知識等を習得したインストラクターを配置し、館内の案内や利用上の説明等に努めます。

なお、体験機器については、節電に努めながら安全かつ円滑な運用を図ります。

(4) 移動展示及び他団体主催展示への協力

要請に応じて、日本中央競馬会及び競馬関連団体等の競馬に関する移動展示に協力します。

また、他の団体等の要請に応じて、競馬の健全な発展と馬の文化に関する知識の普及に資すると認められる場合には、当該団体の展示に協力します。

Ⅲ 競馬振興会館（Gate J.）における事業

- (1) 馬の文化及び競馬に関する各種情報の発信
展示等を通じて馬の文化及び競馬に関する情報を発信し、関心の醸成と知識の普及を図ります。
- (2) 競馬関連イベントの開催
社会的にも関心が高いと思われる競馬の開催週には、トークイベント等を開催し、レースの歴史的背景や、それにまつわる多種多様な情報を提供します。
- (3) 馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映
映像（グリーンチャンネル・馬の博物館及びJRA競馬博物館所蔵の資料画像等）を放映することにより、馬の文化に関する知識の普及と競馬の健全な発展に努めます。

Ⅳ 広 報

馬の博物館とJRA競馬博物館及びGate J.の各種展示活動や行事内容を広く告知するため、各種配布物（ポスター・チラシ・パンフレット等）を活用し、近郊の公的機関・交通機関や競馬関連団体等と連携し、案内広報を行います。

また、ホームページや新聞、雑誌及び競馬場内のターフビジョン・場内ITV映像等、さまざまな媒体を利用し、来館者の増加のための広報活動を行います。

財団ホームページについては、両博物館及びGate J.の展示やイベント情報等を速やかに更新し公開するとともに、より効率的に管理し、各施設の情報をタイムリーに発信します。

また、日本中央競馬会や他団体の催事等への協力に際し、当該催事等の宣伝に努めます。

Ⅴ JRA賞馬事文化賞候補作品の情報収集

日本中央競馬会から業務委託を受け、JRA賞馬事文化賞にかかわる情報収集等の作業を行います。